

しんゆりシアター × 多摩区公演

Shinyuri Theatre

劇団わが町
市内巡回公演

わが町しんゆり

原作 ソーントン・ワイルダー 翻訳 鳴海四郎 翻案・作・構成・演出 ふじたあさや

1901年

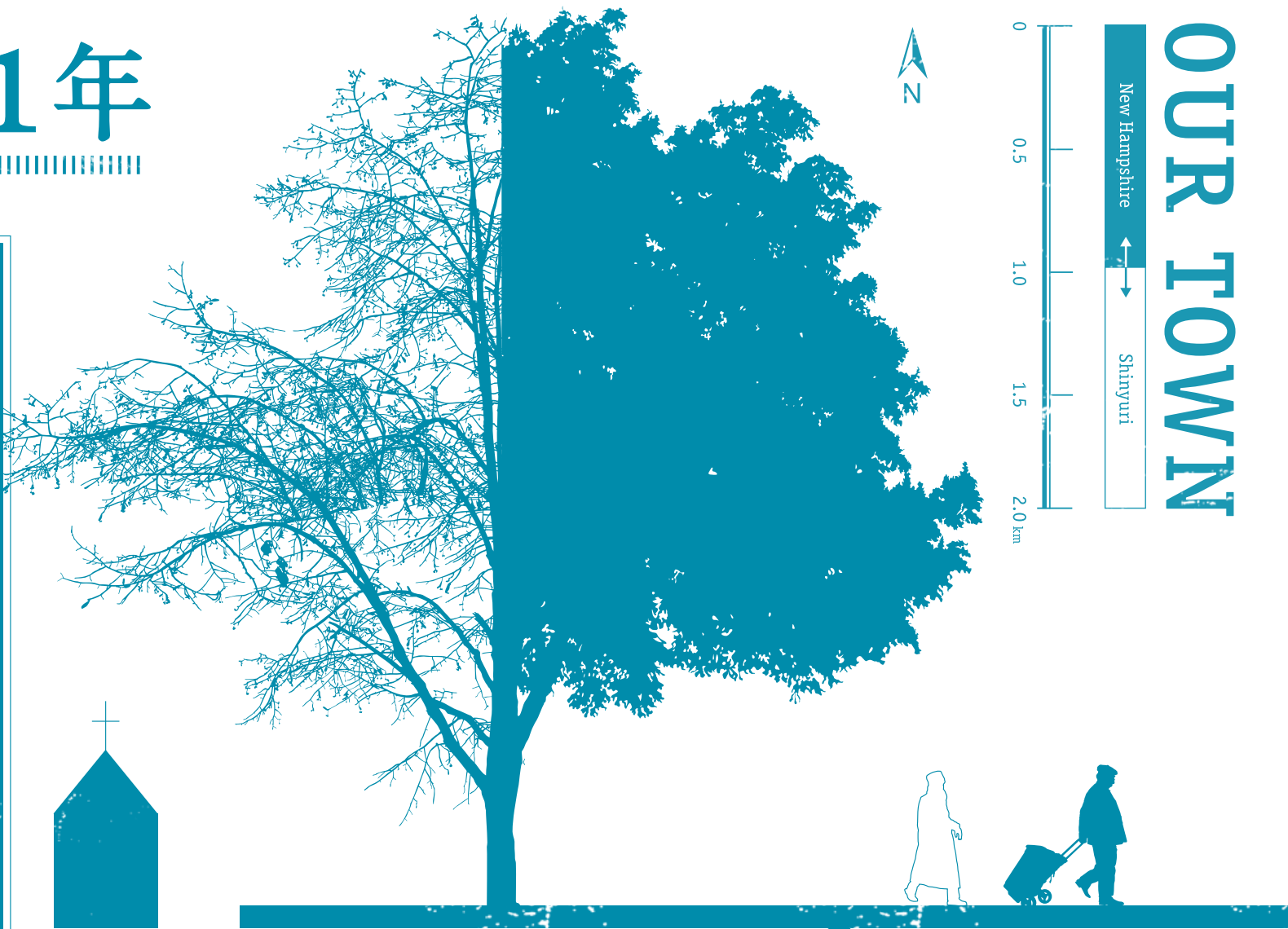


TICKET → 一般 2,500円 / 小学生以下 1,000円 (全席指定・税込) / 発売日: 2014年11月11日 (火)

ニューハンプシャー州

は

しんゆり だった!



*Our Town
Shinyuri Theatre
Original work - Thornton Wilder
Translation - Shiro Narumi
Concept/adaptation and direction - Asaya Fujita*

—嘘、そこって ですよ!

グローヴァーズ・コーナースは
「北緯四十二度四十分、
西経七十度三十七分」ですって?

2015年1月11日(日) 開場13:30 / 開演14:00

公演会場 多摩市民館ホール

お問い合わせ →

川崎市アートセンター TEL 044-955-0107
URL <http://kawasaki-ac.jp/>

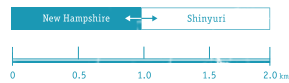
助成: 財団法人地域創造



劇団わが町
市内巡回公演

しんゆりシアター × 多摩区公演 わが町しんゆり

OUR TOWN



劇団わが町

2012年6月に生まれた新しいゆるやかな劇団です。劇団員は地域住民の方々、総勢約50数名。年齢制限はなく、現在7〜76歳までのメンバーが所属しています。しんゆりシアターのラインナップの一翼を担い、長期的に様々な創造活動を行なっていきます。

→ <http://our-town.jp/>

劇団員

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 秋山敏佑樹 | 小山雲母 | 高取良典 | 萩原みどり | 森山蓉子 |
| 池田紗菜 | 狩野 淳 | 竹中秀明 | 橋迫千明 | 矢澤耕一 |
| いまだりえ | 上崎 実 | 田中千恵美 | 林 桃子 | 柳瀬健太郎 |
| 上田明彦 | 木村陽子 | 田中優香 | 日野順子 | 山浦弘靖 |
| 上村健太郎 | 小松 祥 | 田辺佐保子 | 平井陽菜 | 山下優里 |
| 梅澤賢一 | 近藤明子 | 坪井 翔 | 藤村明史 | 山田スミ子 |
| 梅澤実里 | 酒井道子 | 豊田泰史 | 牧野克己 | 山田睦実 |
| 圓崎大和 | 酒井みな実 | 中平朝恵 | 松崎朝子 | 山田誠浩 |
| 圓崎弥生 | 酒井優月 | 夏堀妙子 | 松澤亜美 | |
| 大野倫子 | 品田美季 | 成澤布由子 | 宮下瑛美 | |
| 大野好之 | 杉山つばさ | 羽賀拓郎 | 村上マヤ子 | |
| 奥野汎子 | 鈴木明博 | 萩坂心一 | 村瀬真秀子 | |

客演

- 今野鶏三
- 古館一也
- 原田 亮

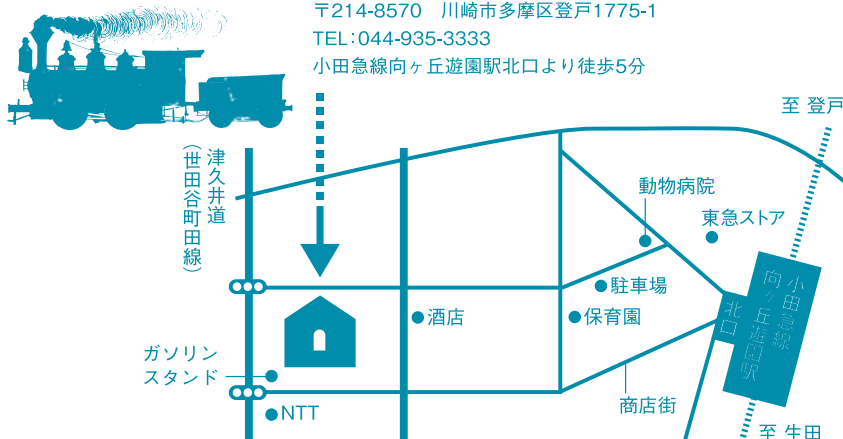
しんゆりシアターとは

2012年4月よりアルテリオ小劇場が主催する公演を「しんゆりシアター」と名づけました。「しんゆりシアター」はリージョナルシアター＝地域劇場を目指します。リージョナルシアターとは広い意味での公共の劇場が、プロの俳優・演出スタッフを集め、演劇やミュージカルの創造発信を行う事を言います。また、劇場の活動を評価するのは地域住民の方々です。この仕組みを理想とし、私たちは川崎市百合ヶ丘地域の創造発信の拠点となる地域劇場を目指します。

アクセス

多摩市民館ホール

〒214-8570 川崎市多摩区登戸1775-1
TEL:044-935-3333
小田急線向ヶ丘遊園駅北口より徒歩5分



お問合せ:川崎市アートセンター アルテリオ小劇場
〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺6-7-1
TEL:044-955-0107 <http://kawasaki-ac.jp/>



← 公演日程

2015年 1月11日(日)

開場 13時30分
開演 14時から

劇場

多摩市民館ホール

(神奈川・向ヶ丘遊園)



1938年にアメリカで発表されたソートン・ワイルダーの戯曲『わが町』は、現在まで世界中であらゆる町に置き換えられて上演されています。劇団わが町では原作の世界と、「私たちのわが町・しんゆり」を自由に行き来する作品に仕上げました。きつと遠い昔のアメリカの物語を身近に感じ、また「私たちのわが町」をさらに大切に感じていただけることでしょう。

チケット

- 一般発売:2014年11月11日(火)
- 料金:一般 2,500円 小学生以下1,000円(全席指定・税込)
- 取扱い:川崎市アートセンター 窓口販売 9:00-19:30
(原則毎月第二月曜除く)
電話予約 ☎044-959-2255
(9:00-19:30 土日祝・原則毎月第二月曜除く)
インターネット <http://kawasaki-ac.jp/th/>

※3歳以上のお客様はチケットをご購入下さい。小学生以下のチケットは窓口販売のみとなります。
※車いすでご来場のお客様は当日のスムーズなご案内のためチケット購入後、事前に川崎市アートセンターまでご連絡をお願いいたします。
※できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

スタッフ

- 原作:ソートン・ワイルダー
- 翻訳:鳴海四郎
- 翻案・作・構成・演出:ふじたあさや
- 美術:池田ともゆき
- 衣裳:坂本真彩
- 照明:坂本義美
- 音楽:藤原 豊
- 音響:山北史郎
- 舞台監督:野口岳大
- 演出助手:ワークショップ講師:大谷賢治郎
- 宣伝美術:中村圭介・吉田昌平(ナカムラグラフィック)
- 主催:川崎市アートセンター
- 後援:「しんゆり」芸術のまちづくり
- 助成:財団法人地域創造
- 企画・制作:川崎市アートセンター
- NPO法人 KAWASAKI ARTS

演出家より

ふじたあさや

『わが町しんゆり』は、2013年の3月に試演、6月に本公演を行った劇団わが町の第1回作品である。アメリカの劇作家ソートン・ワイルダーの描いた、前世紀はじめのアメリカの田舎町の日常を、しんゆりに置き換えたならどうなるのかという試みだった。脚本を書きながら僕の脳裡を去来したのは、父(藤田親昌)のことだった。昭和36年に都内から川崎に越してきた父は、町のすべてが歴史の遺産である鎌倉の生まれで、それだからだろう、地域の歴史に異常に関心を持ち続けた。「この寺の縁起は?」「地名の由来は?」「旧道のルートは?」「細王舎って何の会社?」 そうした好奇心が満たされたとき、父の中では<地域>のイメージが形作られるようだった。そして気がつくとはくは、まさにその延長線で『わが町しんゆり』を書いていたのである。父からもらった素材もいっぱいある。

父は、昭和39年から多摩区文化協会会長を務め、20年後、分区により麻生区文化協会の会長となった。だから、この劇が麻生区文化協会設立30周年記念に呼んでいただき、さらに多摩市民館で公演をもつことに、ぼくは一方ならぬゆかりを感じている。